

あへとふる

49

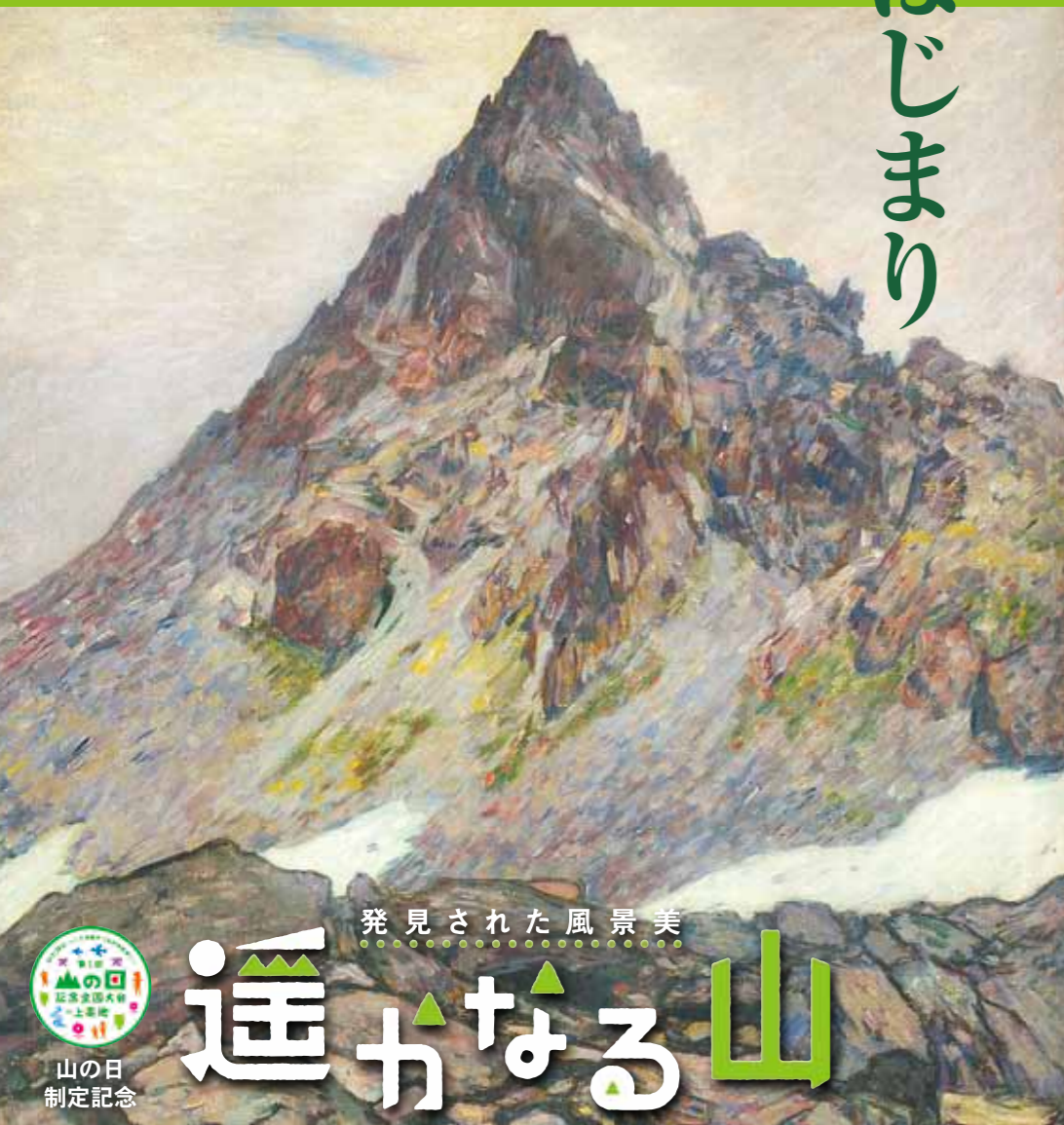
岳美に憑かれた画家たち(大下藤次郎、丸山晚霞、吉田博、中村清太郎、茨木猪之吉、石井鶴三、足立源一郎、五百城文哉、石崎光瑤、武井真澄ら)が新たな色彩を生み出していきます。彼らは自ら山深く分け入り、肌で感じた大気の潤いや匂い、靈気さえも描き留めようとした。

本展では、それら明治後期以降の岳人画家や、登山が大衆化するのに合わせて生まれる多様な表現の作品(安井曾太郎、小島善三郎、東山魁夷、古賀春江ら)、46作家120点を紹介します。

登山が万人の趣味となり写真や映像技術が発達している現代は、美しい山岳風景を身近に共有することが出来ます。このような時代だからこそ、当時の感動が込められた作品の数々より、山の魅力の原点をご覧ください。展覧会です。

山の絵のはじまり

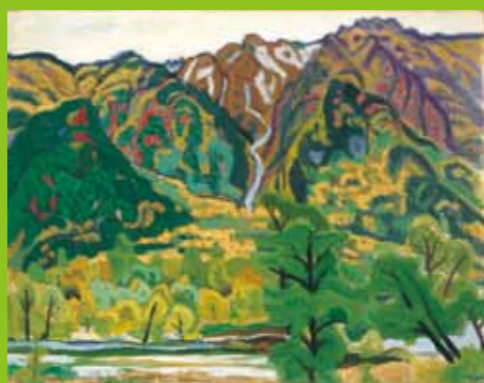
古来より続く信仰や修行などの山登りと区別して、探検やスポーツとしての山登りは「近代登山」と言われます。「日本近代登山の父」と称されるウォルター・ウエストンが初めて松本に至り、槍ヶ岳を目標したのは明治24年(1891)のこと。それから14年後の明治38年(1905)、ウエストンの助言で日本初の山岳会(のちの日本山岳会)が創立されました。近代登山の黎明により、それまでほとんど未知の世界だった3000m級の日本アルプスの荘厳な風景が発見され始めると、山



大下藤次郎《穂高山の麓》明治40年(1907) 東京国立近代美術館蔵



古賀春江《夏山》昭和2年(1927) 愛知県美術館蔵



安井曾太郎《秋の麗沢岳》昭和13年(1938) 長野県信濃美術館蔵

発見された風景美

遙かなる山

吉田博《槍ヶ岳》(部分) 制作年不詳 個人蔵

2016年 7月16日[土] ▶ 9月4日[日]

前期展示 7月16日~8月7日 後期展示 8月9日~9月4日 ※作品保護のため、会期中に展示替えがあります

〈開館時間〉9:00~17:00 (入場は16:30まで) ※8月11日[木・祝]は19:00まで延長 (入場は18:30まで)

〈休館日〉7月19日[火]・25日[月] ※8月8日[月]は展示替えのため、本展覧会のみ閉室

〈観覧料〉大人1,000円、大学高校生・70歳以上の松本市民 600円

※20名以上の団体は各100円引き ※中学生以下無料、障害者手帳携帯者とその介助者 1名無料

〈リピーター割引〉大人 600円、大学高校生・70歳以上の松本市民 300円 ※2回目以降の観覧料、要半券提示、他の割引との併用不可

主催 松本市美術館 共催 abn 長野朝日放送・信濃毎日新聞社・市民タイムス・松本タウン情報 協力 公益社団法人 日本山岳会・一般財団法人 全国山の日協議会・長野県山岳協会・一般財団法人 松本市芸術文化振興財団 企画協力 yab 山口朝日放送

Art Exhibition Guide

編集・発行 大島 武 (当館学芸員)



松本市美術館 MATSUMOTO CITY MUSEUM OF ART

第14回

ポルカドット号

探検記

世界の造形美術の歴史で最初に「山」を主題としたのは古代中国だろう。漢時代の金工「博山炉」は仙人の住む山に見立てた香炉で、煙が立ちのぼると山が生き物のごとく呼吸するように見えるしかけた。中国人の思考では山の中で現実世界が裏返る。小さな洞に迷い込むと、そこが不老不死の仙人と空想の動物たちが遊ぶ幻想世界だったりする。掌に載りそうな小さな香炉が無限の連想を誘う道具となるのだ。彼らの山岳への思いは半端なものではない。北宋時代の水墨山水図では、気が遠くなるほど高く深い山々が描かれていた。

日本古代の自然観、宗教観にもこうした山岳思想の一端は見え隠れする。今も続く山岳修験道があり、平安初期の仏教寺院は人里離れた幽邃な場が選ばれた。

だがその頃日本で描かれた山の絵は中国の水墨山水図とずいぶん違っている。古都大和の地を歩くと、腕を伏せたような低い山並みが霞の上に浮かんでいるのが懐かしく感じられるが、「やまと絵」に描かれたのはそんな風景だ。ひとつ例をあげる

山の絵あれこれ

松本市美術館館長 小川 稔



《信貴山縁起絵巻》「尼公の巻」より 信濃路を行く尼公 平安時代後期 朝護孫子寺蔵

ならば《信貴山縁起絵巻》全三巻の内「尼公の巻」がよい。奇跡譚で知られる奈良朝護孫子寺の行者・命蓮の姉が信濃国から大和の弟をたずねて山路をただ歩く旅行記。他の二巻と違い何の奇跡も起こらないのだが、見る者に忘れられない印象を残すのは、里人の生活の延長にある山々が光に包まれ浄化されて何とも美しく描かれているからだろう。この絵巻の主人公は終始この山々なのだ。

先日、東京ステーションギャラリーで開催している川端康成のコレクション展にいった。川端独特の審美眼で蒐められた美術骨董品を中心に、私生活における初公開の書簡、著作に係る資料等が並べられていた。国宝指定の浦上玉堂《凍雲節雪図》や池大雅・与謝蕪村《十便・十宜図》の迫力は言うまでもないが、埴輪の古代少女のうつろなまなざし、はたまた前衛作家・草間彌生が無名少女であったころの息を呑むような感性の水彩、古賀春江の幻想、等々、どれをとっても心に深く響いてくるものであった。また、若いころの恋愛に係る書簡、特に川端が少女に宛てた青いインクの便箋からは、せつないほどの熱情が伝わってきた。

だが、私をこの展覧会へ向かわせたきっかけは、実は川端の小説に絡む記憶からの興味であった。以前、茶に関わる書籍の紹介をしていたとき、『千羽鶴』を取り上げたことがある。全篇に日本の伝統美である茶道具・茶の世界を背景として映し、そこに繰り広げられる物語、情欲や死の影までまとった生々しい人間関係を、耽美的に描いた作品だ。小説のそこそこに志野焼の茶道具が登場し、陶の肌のえもいわれぬ感触が描写されるのだが、同時に、そこにはこの上ないエロシズムが秘められていることも伝えている。愛人の息子と関係する妖艶な未亡人の遺した志野茶碗には、夫人の口紅のあとが古びた血の色めいて染みついたかに思える景色があった。そして母の罪を負いながら同じ男性と関係する娘の手によって粉々に砕かれる…。

茶道関係の仕事をしていた私にとっては、少なからず驚きを覚える川端の茶道具へのまなざしがあった。

展覧会場に、やはり志野茶碗はあった。ガラスケース越しの加藤唐九郎作碗に、思わず口紅のあとをさがしていた。



眼の果て

細萱 禮子 (当館学芸員)

松本市美術館 news

あーとふる

編集・発行



松本市美術館 MATSUMOTO CITY MUSEUM OF ART

〒390-0811 長野県松本市中央 4-2-22 TEL0263-39-7400 FAX0263-39-3400

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

◇松本バスターミナルからアルピコ交通バス・横田信大循環線 5分【松本市美術館】下車

◇JR松本駅からタウンズニューカー(市内周遊バス)東コース 14分【松本市美術館】下車

◇JR松本駅から徒歩 12分 ◇長野自動車道松本インターチェンジから車で 15分



あがたの森公園

春のワークショップ・イベントレポート

新緑の季節は「バーナード・リーチ展」、「工芸の五月」に合わせたワークショップやイベントで“くらしの美”を体感しました。



■シルクスクリーンで散歩グッズを作ろう!
4月29日(金・祝)
トートバッグに思い思いにプリントして、オリジナルの散歩グッズを作りました!



■はぐくむ工芸 子ども椅子展
4月30日(土)~5月5日(木・祝)
芝生の広場に子ども椅子が大集合! かたちも素材も座り心地も様々!!



■「美を繕う~ 陶磁器の修復体験」
4月27日(水)・28日(木)
人気の修復体験! 陶磁器の修復について学びつつ、欠けてしまった湯飲みやひび割れたお皿を金継ぎで修復しました。

夏・秋のワークショップ・イベントのお知らせ

企画展「遙かなる山」関連プログラム

イベント

ギャラリートーク

日にち: 7月21日(木)・28日(木)
8月18日(木)・25日(木)
対象: 一般
申込受付: 申込不要
担当学芸員が展覧会会場を一緒に回り、展覧会の見どころをご紹介します。

ワークショップ

「インスタント建築」

日にち: 8月20日(土)
対象: 幼児~大人 (小学校低学年以下は保護者同伴)
申込受付: 7月5日(火) から
美術館中庭の芝生ひろばに竹が出現! 色とりどりの紐を使って素敵な空間をつくります。

イベント

はじめての びじゅつかんさんぽ 探検! びじゅつかん!

日にち: 7月20日(水)
対象: 2歳~6歳のお子さんとその保護者
申込受付: 7月5日(火) から
親子で美術館の色々なところを探検! 今回は草間彌生の世界をめぐるります。

企画展「遙かなる山」関連プログラム

ワークショップ

あそ美じゅつ 「妖怪のいる風景を描こう」

日にち: 8月4日(木)・5日(金)
(雨天の場合4日のみ)
対象: 中学生 (小学校5・6年生も可)
申込受付: 7月5日(火)
風景に隠れる“不思議な気配”をアーティストの原良介さんと描いてみましょう。

銅版画基礎講座

日にち: 9月11日(日)・18日(日)・25日(日)
10月2日(日) (4回連続講座)
対象: 一般 申込受付: 8月5日(金) から
ドライポイントとエッチング技法をじっくり学びます。初心者大歓迎です!

ワークショップ

企画展「遙かなる山」関連プログラム

イベント

記念トークショー 「山が教えてくれること」

日にち: 8月28日(日)
対象: 一般
申込受付: 8月5日(金) から
写真家・石川直樹さんとモデル・KIKIさんをゲストにお迎え! 山での体験などをお聞きしながら、山を描いた画家の思いも探ります。

※申し込み・問合せは、美術館 (TEL 0263-39-7400) へ。美術館 HP にも詳細を順次掲載中です。

中澤 聡 (当館学芸員)

ミュージアムショップ イチオシはこれ!!

登山のお供と言えばコーヒー! ミュージアムショップでは企画展「遙かなる山」開催中、展覧会オリジナルコーヒーを販売します。袋越しでも漂う芳香...。味わい深いコクが特徴です。山々の絵を楽しんだ後の一杯にいかがですか?

コーヒー (ドリップ)
1袋 180円(税込)

飯沼英樹

《Flamboyance Vanity》



(Flamboyance Vanity) 2011年

2年前の夏、東京都在住の実業家・田口弘氏の現代アートコレクションを紹介した展覧会「たく展☆」を開催した。松本市内の小学生にアンケートで見た作品を選んでもらったり、展覧会タイトルも考えてもらったりという楽しい試みも所蔵者の田口氏のご協力により実施することができた。本作は、「たく展☆」に出品された1点。松本市出身の彫刻家・飯沼英樹によるもので、展覧会終了後、当館に寄託されることとなり、現在、3階美術情報図書室北側に展示している。現在を生きる飯沼が刻むのは、やはり現在を生きる女性の姿。煌びやかな衣装を身に纏い、最先端のメイクで武装したモデルたち。飯沼はファッション誌の一枚の写真からインスピレーションを得て、被写体の内面ま

でも彫りあげる。《Flamboyance Vanity》を直訳すれば「華麗なる虚栄心」か。他者の視線を強く意識し、なお自らを奮い立たせる女性。垣間見えるのは強かさや葛藤、さらに先にある気高さ。飯沼が表現しようとしているのは、その刹那の神性であろうか。

今秋、当館では飯沼英樹の全貌をご紹介するはじめての展覧会「闘ウ女神タチ」(9月17日~11月27日)を開催する。飯沼は本展に向けて、新たな作品に挑み続けている。あと2ヶ月。どんな作品が生まれるのか? どんな展示になるのか? お楽しみに!

濫田見 彰 (当館学芸員)



(Matilda) 2014年

飯沼英樹展 闘ウ女神タチ

会期: 平成28年9月17日(土)~11月27日(日)
休館日: 月曜日(祝日の場合は次の平日)
料金: 大人 800円、70歳以上の松本市民 600円
※学生無料、障害者手帳携帯者とその介助者1名無料
※団体割引、リピート割引あり

身近な アート

くも、もくもく

遠くを見渡せば、空は青々とさわたり、険しくも美しい山並みが広がるここ「松本」一。誰もが見惚れるこの山の風景を眺めていると、山のとんがりに白い雲がいたずらっぽくひっかかっていた。これでは山の形が良く見えないではないか!と思う半面、この神出鬼没、変幻自在な雲をなかなか憎むことができない。

もくもくと立ち昇る雲、ふーっと息をふきかけられたかのように流れて霧散する雲、ほぼほぼと広がる雲、光を反射して彩り豊かな雲。さまざまな雲が組み合わせ、織り重なって、まるで大きなキャンパスに描かれた絵画のよう。さらに、常に移り変わっていくさまは絵巻物のようにも思う。心弾ませ眺める私に、そんなことはおかまいなしと、すーっと線を引く飛行機にも笑みがこぼれる。

堀井 真美 (当館学芸員)

